

町立保育園の今後のあり方(案)について【趣旨等】

(1) 趣旨

東浦町として、安定的かつ継続性のある保育サービスの提供体制を維持していく必要があるため、改めて町立保育園の役割を確認しながら、これまで本町には少なかった民間事業者の活用を踏まえた、「東浦町立保育園の今後のあり方」を作成しました。本案を作成するにあたり、広く皆様からの意見を募集します。

(2) 目的及び背景

町立保育園を取りまく課題としては、保育士の人材確保を含む今後の運営面、保育施設の老朽化に伴う施設維持費の面などが挙げられます。

今後、保育士不足等をはじめとして、さまざまな課題が挙げられる中、町立保育園と民間事業者が連携して、多様な保育ニーズに応えていく必要があります。

(3) 実施機関の考え方

就学前の児童数は減少傾向ですが、町立保育園の就園率は依然として高く、特に乳児の入園希望は増加傾向にあります。幼児の保育認定児の割合も高まってきていることから、教育認定児の幼児教育・保育を行う幼稚園もしくは、認定こども園が必要です。

また、給食費の無償をはじめ、町立保育園では、保育サービスの充実を図ってきたことで、民間事業者との格差が生じています。保育サービスの充実により生じた料金格差が、民間事業者の参入を妨げていた一因になっていると考えられます。

なお、保育士の状況としましては、本町の保育士は20歳代が7割を占めており、保育士も就業意識の変化などから、異なる職種への転職やチャレンジ意識を持つ職員が増えています。保育士全体として人材確保が難しい中、保育体制の整備が困難になっています。

町立保育園は、開園から50年以上経過している保育園もあり、施設の老朽化の影響から施設整備費の増大が見込まれ、費用面の課題も挙げられます。

これらの現状と課題を踏まえて、今後は、町立保育園8園の一部の運営主体及び設置主体は、民間事業者が行うことを進めていきます。